

第 39 回 企業活性化研究分科会・議事録

< 第 39 回 2011 年 3 月 12 日 (土) 時間 : 13 : 30 ~ 15 : 00 於 : 専修大学 (神田校舎) >

参加者 : 井端、大野、菅原、杉本、高市、千葉、宮川、山本、依田、渡邊

1. テーマ (1) : 粉飾企業の分析

- ・ 報告者 : 高市幸男
- ・ 配布資料 : 14 枚
- ・ 報告内容の要旨

本報告は、株式会社アルデプロ (以下、「同社」という。) の粉飾について分析したものである。同社は、社宅、マンション、ビル等の不動産再活事業を展開する企業で、平成 16 年 3 月に東証マザーズに上場した。同社を取り巻く経営環境は、サブプライムローン問題が顕在化し、外国資本投資ファンドが国内の不動産事業から撤退、住宅価格の値上がりによる消費者の買い控え、また金融機関による不動産業者向け融資姿勢が慎重になり厳しい状況に陥り、急激に悪化した。そのなか同社は、過去の決算における一部の営業取引について会計処理の修正を要する事象が判明した。その後同社は、証券取引等監視委員会から、有価証券報告書の虚偽記載により法令違反を言い渡された。

本分析では、まず訂正前の連結財務諸表から財務数値の推移や傾向を概観し、粉飾内容を分析した。次に、井端和男先生の分析法をもとにリスク測定と似非成長企業のチェックをおこなった。最後に、企業文化や経営者の資質などの定性要因から粉飾の背景や目的を検討した。本報告によれば、同社は平成 18 年度からの売上の過大計上、架空売上の計上、引当金の不計上により粉飾経理をおこない、経常損益や当期純損益数値の改ざん及び虚偽報告、また平成 20 年度では棚卸資産の過大計上により債務超過であったことを改ざん及び虚偽報告した。同社の粉飾は同社の体質やコーポレート・ガバナンスの問題、そして経営者の資質問題から多くの影響を受けていると推察した。

2. テーマ (2) : 「年次大会報告」についての再検討

『米ビッグ 3 のコーポレート・ガバナンス～長期でみた過去の変遷、その特徴と評価』

- ・ 報告者 : 依田光広
- ・ 配布資料 : 9 枚

本報告は、米国自動車メーカーのビッグ 3 におけるコーポレート・ガバナンスを、過去から現在までの長期的観点でその変遷や特徴をまとめたものである。本報告では米ビッグ 3 のコーポレート・ガバナンスを検討し、日本におけるコーポレート・ガバナンスのあり方を考察した。

(次回研究会)

6 月 4 日 (土) 危機管理システム研究学会年次大会 昭和大学

(文責 : 宮川宏)